

分文類

學校ノ職員ヲ置クノ在リ如シ

教師

一名 當分西洋ノ軍醫ヲ以テ之ニ任

一等教官

一名 陸軍本病院分課ヲ以テ一等軍

二等教官

三名 陸軍本病院分課ヲ以テ二等軍

助教

五名 軍醫生徒ノ優等ナル者ヲ以テ

上等幹事

二名 軍醫ノ老實ナル者ヲ以テ之ニ

下等幹事

三名 下等士官ノ老實ナル者ヲ以テ

第一條

軍醫生徒ハ年齢十七歳ヨリ二十歳迄ヲ限リトシ

體格健全ニシテ才識アリ且平日ノ言行方正ナル

者ヲ選ルハナラズ

第二條

軍醫生徒ノ入學ハ期月ノリ先ツ其身體ノ検査シ

以テ學科ノ検査シ合格ノ者ヲ選ミテ入學ヲ許ス

可ナラズ

第三條

軍醫生徒入學志願ノ者ハ書面ヲ以テ本病院ノ願

出ハシ願書ノ式ニ如シ

料紙美濃紙ニツケ

和儀

軍醫生徒志願ニ付御検査ノ上入學御許容被成

下度奉願候也

何府縣貫屬士族卒農商

何誰男第几介

年号月日

何誰印

何歳何月

明治六年

文類

陸軍々醫総監何事殿

前書志願之通相違無御坐候也

何府知事何事殿

但シ入學願書ノ外別ニ明細書ヲ差出スハシ
明細書ニハ父母兄弟ノ所在其身ノ出處牙歴
及ヒ天然痘ノ患ヒタルヤ痘痕ヤ否ヤヲ詳記スハ

第四條

軍醫生徒試業前ハ先ツ二等軍醫正立會テ其身体ヲ
検査スハシ學術対策ノ時日ハ其時々本病院ヨリ
布達スハナラズ

第五條

學術対策ノ科目ハ左ノ如シ

分類

十四 羅甸學

十五 佛蘭學

十六 英吉學

十七 獨乙學

十八 希臘學

以上ノ學科ニ志ク通達スル者ヲ選ルト謂フニ非
ス羅甸學以下ノ如キ其一學ニ通スル者ハ選ニ入
ルノ内外科以上ノ講科ニ於テモ亦其學ノ所淺
深ナキヲ得ス故ニ之ヲ選ルニ計料アルハシ
但シ自費生徒入舍ノ者並通生徒ハ此限ニアラ
ズ學校規則附録ヲ看ル可シ

第六條

生徒既ニ試業ヲ經テ及第シ軍醫生徒ト爲リ入學

ノ許スハ十者ハ其姓名ノ録シ軍醫總監ヨリ陸軍
卿ニ上申シ指令ノ受クハキ事

第七條

既ニ軍醫生徒ノ命ヲ拜スル者ハ即誓詞ヲ上ルハ
シ其式大ノ如シ

今收領之通軍醫生徒被仰付候付テハ本病院並
學校ノ御規則堅ク相守違年學術相違ニ軍醫ニ
補セラレ候上ハ十ノ年ノ間誓テ陸軍ノ醫務ニ
服ス可シ此ニ他ニ轉任ヲ希望シ或病氣等ニ此
シ辭職願出候儀決テ仕間敷候依誓文如件

何年何月何日 何 誰 印

陸軍々醫總監何某殿

第八條

明治六年

軍醫生徒ハ姑ク二十五人ヲ限リ官ヨリ衣服學費
ヲ賜フ其中學術優等ノ者數名ヲ選ビ助教ヲ兼シ
ノ衣服學費ノ外別ニ給料ヲ賜ハル事

第九條

學術ノ精粗ニ依テ軍醫生徒ヲ分テ五等トシ之ヲ
教授スルノ科目左ノ如シ

一等生徒

軍陣外科 軍陣綱帶術 野營醫則 陸軍病
院内實驗

二等生徒

軍陣衛生學 陸軍病院並ニ營醫務 撲兵學

三等生徒

内科 外科 眼科 中藥論 新訟醫學

四等生徒

兼性學 病院解剖 組織學 綱帶術

五等生徒

病理學 生理學解剖學 動物學 植物學
合密學 病理學 算術 軍律 馬術 練兵
水練

第十條

毎歲ニ九ニ大試業ヲナシ毎月一個小試業ヲ
為ス大試業ニ於テ合格ノ生徒ハ各登級セシム即
五等ハ四等四等ハ三等三等ハ二等二等ハ一等一
等ハ軍醫補ニ昇進スルヲ得ハキ事

第十一條

既ニ軍醫補ニ登ル者ト雖モ半歲乃至一歲間陸軍



明治六年

少...

本病院ニ任職シ患者ヲ療シ實際ニ習熟セシメテ
後各隊ニ分遣スヘキ事

第十二條

軍醫補ニ登ルノ年ヨリ後十年間ハ必ス軍醫ニ奉
職スヘシ若シ竊ニ他任ヲ望ミ事ニ任シ辭職スル
者ハ相當ノ罰アルヘキ事

但シ在任中疾病ニ罹リ療疾ニ殆リ永ク其任ニ
堪ユヘカラザル者ハ衆議ヲ經テ免職スヘシ

第十三條

軍醫生徒休業日

御祭日

御祝日

日曜日

第十四條

軍醫生徒帰省日

毎歳七月中及十二月二十二日ヨリ翌年一月七
日ニ至ル

但シ生徒ノ志願ニヨリ勝テタルハシ

第十五條

軍醫生徒疾病ニ罹リ課業ニ就テ難ク止ムヲ得ス
シテ又席スル者ハ必ス醫官ノ診断書並學校幹事
ノ證書ヲ以テ断リ出ヘキ事

第十六條

五十日以上ノ疾病ニテ課業ニ後ル者ハ其病癒
ヘテ後身体ヲ検査シ原級ノ方席ニ入ル可シ且日
以上ニ至ル者ハ一級ヲ下スヘキ事

明治六年

江ノ文
類聚

第十七條

父母ノ看病ハ必ス親族ノ願書醫師ノ診断書並ニ
其管轄廳ノ印證ヲ以テ願出ヘキ事

但シ急病ニシテ本條ノ順序ヲ經ルニ暇ナキ者
ハ此限ニアラス

第十八條

看病願許可ヲ得テ歸省シ日數ヲ經テ歸合スル者
ハ身体検査ヲ除クノ外總テ第十九條ノ例ニ從フ
ヘキ事

第十九條

教官ノ免許ナクシテ他ノ學校或ハ師友ニ通學ス
可カラサル事

第二十條

粗暴ニシテ官物ヲ破損シ或ハ失亡スル者ハ其原
價ニ準シテ償金ヲ納メシムル事

第二十一條

軍醫生徒ハ總テ陸軍本病院及ヒ學校ノ規則ヲ遵
守スハシ若シ罪犯アレハ輕重ニ從ヒ相當ノ罰ニ
處ス且夫ニ揚ル所ノ類ニ至テハ皆退學セシムル
事

甲 軍醫生徒拜命後疾病ニ罹リ永ク從軍ニ堪

ユ可カラサル者或ハ入學後一歳ヲ經テ身体ノ發
育十分ナラサル事

乙 入學後智識ノ發達遲鈍ニシテ才能人ニ如

カサル者急病ニシテ課業ヲ了セズ三次ノ
大試業ヲ經テ登級スルノ能ハサル者

明治六年

少壯類

丙 放蕩無賴ニシテ屢先輩ノ訓誡朋友ノ忠告ヲ受クトモ其行ヲ改メサル者

丁 傲慢粗暴ニシテ先進ヲ凌辱シ後輩ヲ輕侮シ教官ヲ敬禮セサル者

但シ罪科ニ由テハ生徒除名ハ勿論其罪状ヲ日誌ニ載セテ普ク報告スハシ

第二十三條

軍醫生徒學校内外ノ法度ヲ犯スト雖モ輕犯ニシテ軍律ニ當ラサル者ハ盡ク懲罰ヲ以テ論スハシ而テ其罪ノ輕重ニ從テ等差アルヲ尤ノ如シ

甲 舍外禁止

乙 舍外禁止 舍内掃除

丙 室外禁止

丁 別室禁錮

但禁止禁錮ノ日數ハ二日以上ニ過ラズ

キス

第二十三條

教師教官ハ人オテ教育シテ生徒ヲシテ國家ノ用ニ供ヒシムル者トレハ其任固ヨリ重シ故ニ慎ミテ規則ヲ守リ懇切ニ教導シ生徒ヲシテ成シセシメテ以テ其任ニ酬ムハシ決シテ苛激ノ所為輕薄ノ言行等アルハカラサル事

第二十四條

上等幹事ハ軍醫齡已ニ老テ後徒軍ニ堪ハスト雖モ其人徒來功勞アリ且性端嚴ニシテ忠直ナル者ニ名ヲ選テ之ニ任スハキ事

軍醫類

明治六年

第二十五條

上等幹事ノ職掌ハ生徒ヲシテ學校ノ規則ヲ守ラシメノ學課ヲ了セシムルヲ旨トシ其勤惰ヲ監察シ且學校ノ庶務ヲ商議スヘキ事

第二十六條

下等幹事ハ下等士官ノ年老テ兵役ニ堪ヘサルモ其人トナリ正直ニシテ節義アル者三名ヲ舉テ之ニ任スヘキ事

第二十七條

下等幹事ノ職掌ハ總テ上等幹事ヲ補佐スルニ在リ入生徒總兵馬術水練等ノ教場ニ至ル時ハ之ヲ先導シ且為ノ一周旋シテ學習セシムヘキ事

軍醫學校規則附録

自費生徒概則

第一條

生徒軍醫ニ志願アリテ自己ノ入費ヲ以テ入學ヲ願フ者ハ百五十人ヲ限り入學ヲ許シテ教育スヘキ事

第二條

自費生徒中言行方正ニシテ學術ノ進歩敏速ナル者ハ更ニ試業ヲ經テ軍醫生徒ニ擧ク可キ事

第三條

入學ノ願フ者ハ必ス東京在住ノ者ヲ以テ證人ト為シ其證書ノ上ルヘキ事

第四條

生徒ノ年齢ハ十七歳ヨリ二十五歳ヲ限り体格健

明治六年

全ノ者ヲ選ミテ入學セシムルノ軍醫生徒ト同様
タル事

第五條

入學ハ滿一年ヲ以テ期ト為ス止ムヲ得サルノ情
實アルニ非サレハ期年内ニ於テ退學スルヲ許サ
ル事

第六條

學術ヲ檢査シ其淺深ニ從ヒ等級ヲ分テ以テ教授
ノ科目ヲ定ムルノ本編第九條ノ如ク又春秋ノ大
試業登級ハ本編第十條ノ如クナルハキ事

第七條

休業ノ定日歸省ノ日數及病疾缺課等ハ總テ本編
第十三條ヨリ第十六條迄ノ例ニ從フハキ事

第八條

父母ノ看病願ハ入學ヲ願ヒシ證人ノ證書ヲ以テ
願ヒ出フハク歸省後ハ本編第十六條ノ例ニ從フ
ハキ事

第九條

稽古ニ必用ノ書籍器械ハ貸渡スヘシ之ヲ損失ス
ル者ハ本編第二十條ノ例ニ從フハキ事

第十條

總テ規則ヲ犯ス者ハ相當ノ罰ヲ加ヘ或ハ生徒身
上ニ故アリテ退學セシムル等ハ本編第二十一
條ノ例ニ從フ可キ事

第十一條

學校内外ノ法度ヲ犯スト雖モ輕犯ニシテ懲罰ヲ

明治六年

ノ文類

以テ論スハキ者ハ禁足禁錮等總テ本篇第二十二條ノ例ニ依テハキ事

以上十一條惟大綱ヲ舉ルノミ其細目ノ如キハ
舎内傍例ニ詳ナリ

等

六年十一月十七日

名古屋鎮臺軍醫馬醫ノ服制徽章ヲ同定ス

名古屋鎮臺ヨリ本省ノ伺

今般官御布告第百七十三號陸軍武官服制中軍醫馬醫兩部ニ隊附隊外ノ不論總テ參謀科服制相用候御改定之趣ニ付テハ八月中御渡ノ陸軍武官服制表圖中軍醫馬醫正袴側章一分銀線ト有之候ハ御取消之儀ニ候哉此致相同候也 衆規泐鑑

指令

伺之趣取消ニ無之候事 十一月二十四日

改正 定例 附録

山文類聚 卷第六